

舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）だより

令和4年8月

☆あっと驚くスケール！ふっと笑える発想！—江戸の浮世絵師歌川国芳

（京都府ミュージアムフォーラム合同展覧会「あやしい・京都」連携企画展）



「酒呑童子誅戮(ちゅうりく)之図」

歌川国芳は江戸時代末期を代表する浮世絵師です。武者絵の国芳として有名ですが、戯れ絵も美人画も一流です。舞鶴市糸井文庫は丹後に関する資料2000点余を保有していますが、その中でも丹後の伝説を浮世絵にしたものが約200点あります。歌川派の全盛期を支え、日本でいちばんたくさんの浮世絵を描いたといわれる歌川国貞(豊国3世)が49枚、次に多いのが国芳の浮世絵29枚です。そこで、4月に紹介した3枚を除く26枚を、城下町コーナー・一品コーナーも使って一挙に公開いたします。題材は酒呑童子、浦島太郎、三庄太夫、石川五右衛門、静御前、丹後鷹、天橋立です。丹後を舞台に躍動する国芳を御覧下さい。尚、糸井文庫の浮世絵はインターネットで御覧いただけます。



「水滸伝ふくまのてんにて百八の星おはしらす見立」



「橋立雨中雷」

展示品表題	制作年
百人一首之内小式部内侍	天保後期(1840年代)
大江山酒天童子酒えんの図	文政間(1829)
大江山福寿酒盛 酒呑童子	嘉永6年(1853)
※〔酒呑童子誅戮之図〕	嘉永4年(1851)
頼光大江山入之図	嘉永6年(1853)
※〔鬼首火焰を吹く図〕	天保年間(1843)
源頼光大江山にて酒呑童子を退治し給う	天保後期(1840年代)
酒呑童子 首討	文政末期
〔頼光鬼童丸退治図〕	弘化4年(1847)
絵兄弟やさすがた	天保14年(1843)
耀武八景市原野晴嵐	天保中期
和漢準源氏野わき	安政2年(1855)
水滸伝ふくまのてんにて百八の星おはしらす見立 浦島太郎玉手箱をひらく	天保14(1843)
木曾街道六十九次之内福島	嘉永5年(1852)
浦島太郎帰国の図	弘化年間(1844~47)
昔談柄三升太夫	嘉永5年(1852)
昔談柄三升太夫	嘉永5年(1852)
江都錦今様国尽丹後但馬	嘉永5年(1852)
本願廿四考 安寿姫 対王丸	弘化年間(1837)
〔捨若丸と祇園のおりつ〕	安政2年(1855)
石川五右衛門釜入の図	嘉永4年(1851)
静御前と狐忠信	弘化4年(1847)
〔堀川夜討の図〕	天保14~弘化4年(1843~7)
忠孝名誉奇人伝	弘化2(1845)
山海愛度図會 丹後鷹	嘉永5年(1852)
橋立雨中雷	
団扇絵ありつ竹沢寿命くらべ	弘化元年(1844)
辻浦しま当たる面箱	嘉永元年(1848)
流行どふけこまづくし	弘化元年(1844)

※京都府立京都学歴彩館で展示のため、当館では複製を展示します。



「山海愛度(めでたい)図絵 丹後鷹」

コロナウイルス感染予防対策に
ご協力ください



お問い合わせは

舞鶴ふるさと発見館
(舞鶴市郷土資料館)

TEL:0773-75-8836

(受付時間 9:00~16:30)

FAX:0773-77-1314

住所:舞鶴市字南田辺1番地
(ゆうさい会館(西総合会館)1北側)

展示室 入場料:大人 100円、
市外学生 50円

サロンスペース:無料

休館日:1(月)・8(月)・12(金)・
15(月)・22(月)・29(月)